



ナゴヤイノベーターズ ガレージが始動



7月8日(月)、(一社)中部圏イノベーション推進機構(会長:豊田中経連会長)が運営する「ナゴヤ イノベーターズ ガレージ」は、産学官連携関係者、中経連イノベーション委員会の登録法人、地域のイノベーション活動の支援者など、約150名を招きオープニングイベントを開催した。

イベントの概要は以下のとおり。

1 開会挨拶(要旨)

豊田会長

中部圏の中心都市・名古屋市との連携により開設した本拠点は、イノベーションを触発し続ける「場」の必要性について産学官が繰り返し議論を行い、意見を一致させ誕生したものである。これまでは、ものづくりの分野で世界をリードしてきた中部圏ではあるが、今、既存の価値観にとらわれない新産業創出への取り組みが不可欠となっている。拠点では、異業種・異分野の人たちが共創をベースに、中部圏の強みを生かすだけでなく、さらにその枠組みを取り払い、想像を遥かに超える全く新しい価値が生み出されることを期待している。今後の中部圏の持続的な発展に向けて、引き続き活動のご支援をお願いしたい。



河村名古屋市長

名古屋市は中部圏(セントラル・ジャパン)の中心地であり、愛知県の製造品出荷額は40年連続日本一であるように、これまで安定的に良好な経済状況を維持してきた。一方で、100年に一度と言われる今の社会・産業の大変革に即応し、さらに将来に向けて当地域が発展し続けるためには、新しい市場やこれまでの既成概念を覆す製品や商品を生み出す「イノベーション」が急務である。経済界と行政が連携して運営するこの拠点から、世界規模のイノベーションが創出されることを期待したい。



2 「ナゴヤ イノベーターズ ガレージ」オープンまでの道のり

ナゴヤ イノベーターズ ガレージの構想は、中部の産学官関係者が一堂に会する第15回中部産業振興協議会(2016年10月)まで遡る。協議会では、中部圏のイノベーションを促進し続ける仕組みや拠点の必要性などを議論し、その実現への期待を表明した。これ以降、中経連イノベーション委員会や有識者会議、関係機関へのヒアリングを断続的に実施した。第17回中部産業振興協議会(2018年10月)において、中部圏のイノベーション拠点と圏外とのハブになり得る施設を名古屋都心部に設置することが提案され、産学官が一体となって中部圏のイノベーション力強化と拠点開設に取り組んでいくことで認識が一致した。これを機に中経連イノベーション推進部にプロジェクトチームが発足し、名古屋市との協力のもと、拠点に必要な機能やプログラムの議論、コンセプト、デザインづくりを本格化した。そして、昨年秋の協議会から約8カ月後の2019年7月8日、ナゴヤ イノベーターズ ガレージはいよいよ歩みはじめる。



3 トークセッション

3名のゲストスピーカーを招待し、世界のどの都市にもないコンセプトを実現させたナゴヤ イノベーターズ ガレージについて、デザイン、空間設計、芸術・創造性について、それぞれの関わりからの想いを語っていただいた(トークセッションの内容については、本誌9月号にて掲載予定)。

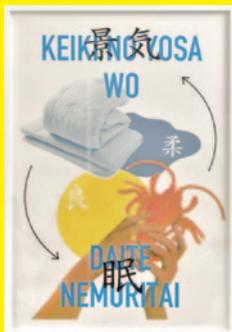


- 左 : 東京丸の内地区など、多くのプロジェクトに携わったまちづくりのプロ
(株)ビルダーズ代表の安田耕司氏
- 中央: 世界で数々のデザインアワードを受賞しているインテリアデザイナー
(株)ドラフト代表の山下泰樹氏
- 右 : コラボレーションプロジェクトの実現を支援した
愛知県立芸術大学教授の設楽知昭氏

4 内覧会

オープニングイベントに続き、ナゴヤ イノベーターズ ガレージの上質な空間を演出するアートの制作者5名の紹介を兼ねた内覧会を開催した。作品は、オリジナリティの大切さや、考え抜き問いを立てることの重要性、そして革新の難しさなど、イノベーションにつながるメッセージを内包しており、これから実施していくプログラムとのシナジーを十分に期待させるものである。アートの展示は、2016年に愛知県立芸術大学との連携を開始した当初から実現を目指してきたプロジェクトで、まさに異分野融合による新しい価値創造を実践するナゴヤ イノベーターズ ガレージの象徴にもなっている。

ART INFORMATION



EBI KEIKI II
作: 福田莉代氏



BANANA #1



BANANA #2
作: 石場文子氏



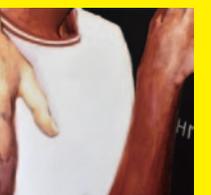
BANANA #3



life(たま)
作: 守本奈央氏



red(2)



at the club

作: 川上真由香氏



untitled



untitled

作: 緒方ふみ氏



untitled

作: 緒方ふみ氏